

子ども平和新聞

2025.7.29
美園北小6年
武井 淳広
埼大附属小5年
菅菜々子
村石 華音
大宮国際中等教育学校
1年 木暮千紘

今も変わらぬ被爆者の願い

飛び立つ

しらすぎの思い

今回は、しらすぎ会
の木内ゆき子さんに戦
争のかこについてお聞
きました。「私のお
父さんはけいお所で働
いていたのでけいお所
に住んでいました。」

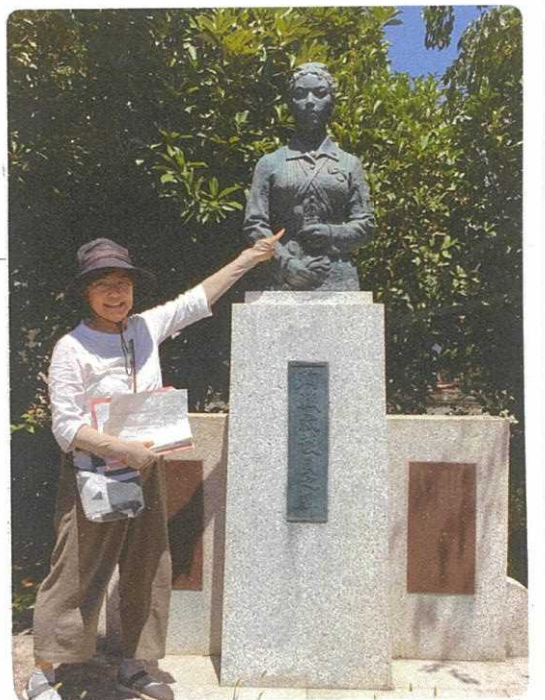
月6日8時10分ごろ、
岡山から広島はB29
が来たということであ
る。うけいぼうが死
にされたんです。そし
て防空こうに入らな
く、はいけないという

きにB29が帰ったと
いう情報はい、た
ん。私は近くのお風
呂屋さんへ、兄は中島
小学校へ、その時ピカ
リとするどい光を受け
ました。その時は気
絶してしまいました。気が
ついてしばらくすると
けいお所に行きお母さ
んに会いました。その
後の生活はがまん、水
んぞくでした。ですが
学校に通わせてもらえ
ただけで幸せでした。

私はまだ、広島で人が
助けられる年れいでは
なかつた。だからこそ
人のやくにたしたいと
思いかんじふになりま
した。そして、戦争の
歴史を伝え学ばせ平和
と希望の未来をつかん
でほしいと語った。

（菅菜々子）

自身の体験について語る木内さん



殉職救護員の碑について説明する入江さん

博愛人道 胸に救護

日本赤十字社埼玉支
部の敷地内に建つ「殉
職救護員之碑」には、

戦時中の人々の思いが
つまっている。この記
念碑は、日本赤十字社
の移動にもなつて今
の場所へと移された。
殉職救護員の人々は
「博愛人道」を胸に救
護していたと言う。こ
の言葉には、敵も味方
も平等に救護する、と
いう強い意志が込めら
れている。博愛人道を
胸に、自分の命を顧み
ずに働いた人々を後生
に伝えていくために、
この記念碑は作られた
のである。【木暮千紘】

消えていった 宝箱



奉安殿

「奉安殿」消えてい
った宝箱。戦中、その
中には教育勅語や、天
皇、皇后の写真が入っ
ていた。「奉安殿」と
は、大切なものを保管
している特別な建物の
こと。大切な天皇、皇
后の写真などの宝物を
守るのに先達たちは必
死だった。もしもそれな

かった場合は校長が自
殺する例もあったとい
う。今、奉安殿が少な
いという事実は「昔の
日本と今の日本は全然
ちがったんだな」とい
うことを教えてくれる
貴重な歴史の証人へと
変化している。

武井 淳広

石けりあそび

戦争があり食べ物や
家などがなくなつてし
まいくろうしたと木内
さんは話しています。
家族は元気でしたかう
く4ヶ月の間、学校に
通えなかつた。聞いて
います。それから、少
しの間でしたが、学
校に通えた時は、こ
ううれしかつたそう
です。他にも良くない事
は続きます。例えば戦
争中の食べ物はとても
マズいのですが数少
ない食料なので毎回け
ん命に食べたそうであ
る学校に行くようにな
る。女の子は、石けり
あそび。男の子は部屋
であばれていたそうです。
少ないしあわせの中で
大きなしあわせが起
きました。ばくだんのば
く後は、数日間けい
お所にくらしていたそ
うなのですが、ろう下
を歩いていた所、声
がしたので、行、て見る
とお母さんがいたそう
です。木内さんは当時
必しいたそうで、家族
全員がそういみんな
いばりさ果にもどろく
りしたそうです。

（村石華音）